

女は明るく、男はやさしい

—世界青年意識調査から—

統計数理研究所名誉所員

西 平 重 喜

「ハレ女」、「ヤサ男」という言葉もあるけれど、ちょっと違ったニュアンスで、日本の若い女は「私は明るいデース」というが、若い男は「オレやさしいヨ」と主張する。ある大学で世論の講義を頼まれ、話しのネタにかっこうな資料として『世界青年意識調査』を取り上げることにした。データを見ていくにしたがって、これにはビックリした。一人でビックリしていくには、勿体ないと思い、この調査の実査をした新情報センターに、原稿の押し売りをしたのである。

1. 調査の概要

最初にデータの根拠をみよう。総務庁青少年対策本部は1998年に、『第6回世界青年意識調査』を実施した。この調査は1972年に始められ、5年置きに（1回だけ6年目）世界の11カ国で、18歳から24歳の青年男女を面接調査している。サンプルは各国とも約1000人で、日本ではランダム・サンプリングであるが、他の国はその国の慣例により、全国を代表するような割り当て法などが使われている。調査の対象国は日本、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデン、ブラジルは毎回であるが、他の国は時によって変わることがある。今回は韓国、フィリピン、ロシア、タイである。

実は私は第1回の調査の企画段階から、第4回まで協力してきたので、懐かしい質問も多い。報告書の執筆とは違い、気ままにデータのつまみ食いをさせていただく。

ここでは日本、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスの5カ国の国際比較をする。他の諸国にも関心がある。例えば日韓の若者の意見や、その変化など重要なことではあるが、2国間の比較はバックにある社会状態を考慮に入れたものでなければまらない。しかし上記5カ国の社会状況は一応知られており、無条件に（といっては言いすぎだろうが）比較が出来ると思ったからである。

ただし日本では20歳以上が成年で、18歳、19歳は選挙権がない。今どきそんな国は先進国、途上国をとわず世界中で珍しい。したがって日本だけは未成年も含むことになる。しかし選挙に関する質問はないので、別に考慮する必要はないだろう。

なお以下で若者、青年、あるいは女とか男というのは、18歳から24歳の人達である。

2. 誇りにしている性格

さて表題の質問はこうである。

『あなたは自分自身について誇れるものは持っていますか。この中で当てはまるものをいくつでも選んでください』

そして次のリストを見せる。

『1 明るさ、2 やさしさ、3 忍耐力・努力家、4 慎み深い、5 賢さ・頭のよさ、6 まじめ、7 正義感、8 決断力・意志力、9 体力・運動能力、10 容姿、11 誇れるものはない』

この結果の女と男の答えを、多く挙げられた順に示したのが表1である。

このうち「体力」、「容姿」などは性格とは

表1 誇れる性格

凡例	女	日	独	仏	英	米
50%以上	1 明るさ 55.0	やさしさ 69.9	やさしさ 66.5	正義感 78.7	やさしさ 79.4	
	2 やさしさ 33.7	正義感 63.9	決断意志 52.7	やさしさ 73.4	明るさ 71.4	
40%台 30%台	3 まじめ 30.6	明るさ 54.0	明るさ 52.2	明るさ 67.2	賢さ 63.7	
	4 忍耐努力 24.9	忍耐努力 43.8	まじめ 51.2	忍耐努力 60.3	決断意志 60.3	
	5 決断意志 20.3	決断意志 33.6	忍耐努力 42.2	決断意志 47.1	忍耐努力 56.7	
20%台 10%台	6 体力運動 19.9	賢さ 32.8	正義感 33.1	賢さ 30.8	容姿 50.8	
	7 正義感 19.1	容姿 32.2	慎み深い 23.3	まじめ 24.0	まじめ 49.2	
	8 慎み深い 4.5	慎み深い 31.4	賢さ 14.7	慎み深い 21.3	正義感 45.0	
10%未満	9 容姿 4.3	まじめ 28.3	体力運動 9.8	体力運動 12.6	慎み深い 38.9	
	10 賢さ 3.2	体力運動 15.7	容姿 9.6	容姿 10.1	体力運動 35.9	
答の個数の平均 該当なし、不明		2.4	4.2	3.8	4.1	5.5
		9.5	2.8	6.3	2.0	0.6
凡例	男	日	仏	独	英	米
50%以上	1 やさしさ 46.1	やさしさ 64.1	やさしさ 59.5	正義感 78.0	やさしさ 72.9	
	2 明るさ 40.6	忍耐努力 48.6	正義感 53.2	明るさ 65.3	賢さ 66.0	
40%台 30%台	3 まじめ 30.9	まじめ 45.9	明るさ 47.6	やさしさ 64.1	体力運動 62.8	
	4 体力運動 30.4	決断意志 45.0	忍耐努力 43.9	忍耐努力 60.6	明るさ 62.6	
	5 忍耐努力 25.6	明るさ 42.3	体力運動 39.2	体力運動 42.7	決断意志 60.7	
	6 正義感 20.7	正義感 28.8	賢さ 36.8	賢さ 42.5	まじめ 58.0	
20%台 10%台	7 決断意志 18.5	慎み深い 25.7	決断意志 35.7	決断意志 42.1	忍耐努力 56.1	
	8 慎み深い 8.0	体力運動 24.5	まじめ 30.8	まじめ 31.6	容姿 55.0	
10%未満	9 賢さ 5.0	賢さ 17.4	慎み深い 25.5	慎み深い 30.8	正義感 49.6	
	10 容姿 4.8	容姿 11.8	容姿 23.4	容姿 22.0	慎み深い 44.8	
答の個数の平均 該当なし、不明		2.7	3.9	4.1	4.8	6.0
		13.7	9.2	2.8	0.8	1.7

いえないけれど、「体力を誇る」、「容姿を誇りにする」という意味であるから、性格とよぶことにする。

(1) 日本の女と男の比較

1) 日本の若い女の55.0%が「明るさ」を誇りとし、「やさしさ」を誇りとする者33.7%より多い。しかし日本の若い男の誇りとするものの中で、もっとも多いのが「やさしさ」46.1%で、つぎは「明るさ」40.6%である。

繰り返しになるが、半分以上の女が「明るい」というのに、「やさしい」と自覚する女は1/3しかいない。少し変な日本語だが、「やさしさ」の点で女は男に12.4%も劣っている、ということもできる。

こんな個人的な感情(オドロキ)はこの程度にして、分析をつづけよう。

2) 第3の性格は「まじめ」で、女も男も31%たらずである。

その他の性格は若い女と、若い男で似たりよったりであるが、「体力・運動能力」は女は男より10%以上少ない。「努力家・忍耐力」、「正義感」、「決断力・意志力」に富む若者はどちらも5人に1人程度であるが、これだけのデータで、だからどうってことはないだろう。「慎み深い」が10%を切っているのは、正直な答であるといいたくなる。

「賢い・頭のよさ」や「容姿」を誇りとしてひけらかすわけにはいかず、5%未満である。

(2) 性格の国際比較

次に各国の若者の性格を比べてみよう。

1) 国際比較にはむずかしことがいろいろあるが、早速つぎのような問題が起きている。上で見たようにこの質問では、該

当するものをいくつでも挙げるように要望した。そうすると表1の下の方の「答の個数の平均」という行にあるように、日本の女は自分の性格に該当するものとして、10項目のうち平均2.4項目しか挙げない。ところがアメリカの女の平均は5.5項目、男は6項目である。すなわちアメリカでは「それも誇りにしている。これも誇りだ...」というように、多くの人が10の性格のうち半分以上を該当するというのである。イギリス人もこれにつぎ多くを挙げる。しかしドイツ人やフランス人はそれより少ない。

そしてまた「誇れるものはこの中に何もない」や「分からない、無回答」を合計して、「該当なし、不明」の行にのせたが、日本人は10%前後であるが、アメリカ人は約2%にすぎない。

どんな国際比較の調査でも、「リストの中からいくつでも選べ」という質問では、いつでも日本人は2つか、3つしか選ばないが、アメリカ人はやたらに選ぶ。イギリス人がこれにつぎ、ドイツ人やフランス人は少なめである。そして日本人はいわゆる無回答が多い。

国際比較の調査をするときには、質問を作った国の人々に該当するものが、多くなりがちである。ところが、表1の各国のデータをもう1度見れば、日本では半分以上の誇りになっているのは、「明るさ」(女の55.0%)だけである。また、アメリカでは半数以上の人があげた性格が男では8つ、女では6つと多くなっている。

2) したがってパーセントの大小だけで、国際比較をするわけにはいかない。そこでどの性格を一番誇りにしているか、次は...、というふうに、誇りとする性格の

順位を比べることにする。

若い女にとっては「明るさ」と「やしさ」はどの国でもトップ3に入っている。しかし日本の女以外は「やさしさ」の方を「明るさ」より誇りとしている者が多い。

若い男の方はイギリス人を除いて「やしさ」がトップにある。イギリスの男は「正義感」が第1位であるが、「やしさ」も64.1%の若者の性格となっている。したがっていまや「やさしさ」は日本だけではなくて、先進諸国の若い男の共通の性格となっているのである。

逆にどの国の女性も「容姿」を誇りにするとは口にしにくいようだが、半分以上のアメリカ女の自慢の種である。しかし彼女達にももっと誇りにすべきものがあるので、第6位に止まる。「体力、運動能力」は他の国女性にとっては、ビリから1番か2番目であるが、日本の若い女にとっては第6位に誇るべき性格である(オリンピックの女と男の成績評価はおまかせします)。そして今日ではどの国でも女の方が男より、「慎み深い」という自覚に欠ける。その他の性格は国によりまちまちで、表1で細かく見ていただきたい。

男にとっても「容姿」、「慎み深い」、「賢さ・頭のよさ」はどこでも余り誇りとされない。しかしアメリカの男は「賢さ」は第2位に誇るべき性格で、66.0%もいる。自分で「賢い」とか、「頭がいい」という者は、日本では「ハナもちならない奴」である。アメリカの若い男の3人に2人が「ハナもちならない奴」である。なおイギリスでの調査票ではintelligentとなってい。intelligentはイギリスではやはり遠

慮されているが、アメリカではハナもちならなくはないのかもしれない（米語は不明）。

3) 順位に注目すると、1%の差でも、20%もの開きがあっても同じに1位違いになってしまう。しかし大掴みに各国の性格を比較するために、順位相関係数を計算してみると表2のようになる。なお各性格のパーセンテージの数字そのものの相関係数は表3に示したが、相関係数の大きさの順に余り大きな狂いはないので、順位相関係数で話しを進める。

表2 誇れる性格の順位相関係数

男＼女	日	仏	独	英	米
日		0.81	0.38	0.50	0.42
仏	0.73		0.60	0.70	0.61
独	0.67	0.52		0.90	0.67
英	0.60	0.41	0.96		0.52
米	0.47	0.20	0.44	0.31	

空欄より右上は女、左下は男

表3 誇れる性格の%の相関係数

男＼女	日	仏	独	英	米
日		0.74	0.46	0.53	0.52
仏	0.80		0.61	0.69	0.66
独	0.71	0.61		0.91	0.62
英	0.56	0.47	0.93		0.58
米	0.54	0.44	0.48	0.20	

空欄より右上は女、左下は男

最も似た性格を示しているのはイギリスとドイツの男の0.96で、トップ3の性格が前後している。イギリスとドイツの女も0.90でかなり似た性格である。そのつぎに性格が似ているのは0.81の日本とフランスの女性で、男性も0.73でこれについている。逆にアメリカの男と他の国の男との順位相関係数は0.47以下で、アメリカ男は独自の性格ということになる。しかしアメリカ女は他の国の中とそれ

ほどかけ離れた性格ではない。

なおこの5カ国の性格の順位の一致の度合を調べる一致係数Wを計算してみた（どの国も全く同じ順位なら1、国により全く違えば0）。男の方は0.63で女は0.69で、男の性格の共通性と、女の共通性は同じ程度で、「国によりまちまち」というよりは、「共通性がある」と見るべきであろう。

(3) 女と男の性格の違い

こんどは各国でその国の中と男の性格にどれほどの違いがあるかを、比較しよう。まず表4で全体的にみると、10の性格の女と男の%の差（絶対値）の平均が一番小さいのは日本人の4.8%で、次はフランス人5.8%であり、以下アメリカ人6.9%、ドイツ人7.4%、そしてイギリス人8.8%である。相関係数や順位相関係数はいずれも高いが、アメリカの女と男の係数はやや低い。

表4 女と男の性格の差（絶対値）

	日	仏	独	英	米
差の平均(%)	4.8	5.8	6.9	7.4	8.8
最大(%)	1.4	14.7	26.9	23.5	30.1
最小(%)	0.3	2.2	0.4	0.1	0.3
相関係数(%)	0.89	0.91	0.73	0.81	0.93
順位相関係数	0.92	0.88	0.60	0.76	0.85

したがっての女と男の性格が似ているのは日本人とフランス人で、ドイツ人がこれに次ぐ。イギリス人は「体力」について、男女の差が30%も越えている。しかし相関係数は高いから、フランスやドイツに準ずるものといえよう。アメリカ人も「体力」が26%もの開きがあるが、相関係数も順位相関係数も他の国より低い。すなわちアメリカの女と男はある程度違った性格であると考えたほうがよい。

なお表5に各性格ごとの、女と男の差を示

したが、日本を除いて女と男の差が1番大きいのは「体力・運動能力」である。日本では「体力・運動能力」についてよりは、「明るさ」、「やさしさ」の方が女と男の差が大きい。しかも「やさしさ」は上でも述べたとおり、日本以外では、男より女の性格として選ばれることの方が多いにもかかわらず、日本では女が男よりこの性格を誇りしていないという、特異な現象を示している。「明るさ」はどの国でも女の方に誇りが強い性格となっているが、日本での差はかなり大きい。

表5 各性格の女と男の差

男\女	日	米	英	仏	独
明るさ	-14.4	-8.8	-1.9	-9.9	-6.4
やさしさ	12.4	-6.5	-9.3	-2.4	10.4
忍耐努力	0.7	-0.6	0.3	6.4	0.1
慎み深い	3.5	5.9	9.5	2.4	-5.9
賢さ	1.8	2.3	11.7	2.7	4.0
まじめ	0.3	8.8	7.6	-5.3	2.5
正義感	1.6	4.6	-0.7	-4.3	-10.7
決断意志	-1.8	0.4	-5.0	-7.7	2.1
体力運動	10.5	26.9	30.1	14.7	23.5
容姿	0.5	4.2	11.9	2.2	-8.8
男女差		10%以上	5%未満		

プラスは男>女、マイナスは女>男

日本以外の特徴を見れば、アメリカでは女が「まじめ」と「慎み深さ」を主張するものが少ない。イギリスの未来のジェントルマンは、レディより「容姿」と「賢さ」に自信を示している。平等の国フランスではどの性格でも、女と男の差は小さいが、マイナスが多いということは、女の方がはっきり性格を主張する傾向が多いのかもしれない。ドイツのメッツェン（とわれわれ世代は呼ぶが）は「正義感」という点で男勝りであるが、「やさしさ」の主張も忘れない。

少し無理なこじつけだろうか。結果を見ないうちは「まさか…」であっても、結果

を見れば「言われてみれば…」であることが多いようだ。世論調査とはそれほどのものかもしれない（だから有用だ、といいたい）。

3. 付き合い

性格の質問にこだわりすぎたかもしれないが、もう一つ、人との付き合いとういう面からの、性格についての質問がある。

『あなたは次のようなことをどの程度できますか』という前置きで、

『相手が怒っているときに、うまくなだめる』

『知らない人とでも、すぐ会話を始める』

『話し合いの輪の中に、気軽に参加する』

『何か失敗したときに、すぐ謝る』

『自分とは違った考えを持っている人とうまくやっていく』

という6項目について、次の3段階のどれに当たるかを聞いている。

『1いつでもできる。2なんとかできる。3できない』

各項目に対して「いつでもできる」と答えた%を表6に示した。

まず「いつでもできる」という答えの6項目の平均を見ると、イギリス人は女も男も3/4前後が「いつでもできる」と答えているし、アメリカでも女と男とも7割り近くである。フランスでは半分前後で、日本人の平均は女と男とも約1/3である。ドイツ人は3割未満である。

しかもどの項目をみても一番人付き合いがいいのは、イギリス人かアメリカ人で、3番目はフランス人であり、4番目と5番目を日本人とドイツ人が争っている。

全体的な比較のために、5項目であるが順位相関係数と、%の相関係数を表7と8に計算した。この中にはマイナスすなわち逆順に近い

表6 付き合い(いつでもできるの%)

凡例	女	独	日	仏	米	英
50%以上	1	会話始める 32.8	失敗謝る 54.8	失敗謝る 56.7	違う考え方 73.1	違う考え方 85.9
40%台	2	話し合い参加 32.6	会話始める 34.9	話し合い参加 56.5	話し合い参加 70.6	会話始める 82.6
30%台	3	違う考え方 29.7	話し合い参加 33.9	違う考え方 46.1	会話始める 70.2	なだめる 73.1
20%台	4	失敗謝る 29.5	違う考え方 22.7	なだめる 44.5	なだめる 68.9	失敗謝る 65.5
	5	なだめる 22.6	なだめる 22.1	会話始める 36.5	失敗謝る 66.0	話し合い参加 60.9
		平均 29.4	平均 33.7	平均 48.1	平均 69.8	平均 73.6
凡例	男	独	日	仏	米	英
50%以上	1	話し合い参加 37.4	失敗謝る 55.6	失敗謝る 62.7	なだめる 66.6	会話始める 87.9
40%台	2	会話始める 29.2	話し合い参加 33.7	話し合い参加 62.2	話し合い参加 66.2	違う考え方 82.8
30%台	3	違う考え方 25.5	違う考え方 31.5	なだめる 53.9	失敗謝る 65.6	なだめる 72.7
20%台	4	なだめる 25.3	なだめる 30.7	違う考え方 51.9	違う考え方 65.5	失敗謝る 67.6
	5	失敗謝る 22.4	会話始める 29.4	会話始める 41.3	会話始める 61.1	話し合い参加 64.3
		平均 36.2	平均 54.4	平均 65.0	平均 28.0	平均 75.1

場合もしばしば見られ、女の間はマイナスでも、男同志ではプラスということもあり、まとまった結論は得られない。一致係数Wを計算すると男は0.08で国により順序は無関係で。女も0.22でほとんど共通性がない。

表7 付き合いの順位相関係数

男\女	日	仏	独	英	米
日		0.4	-0.4	0.4	-0.5
仏	0.9		-0.2	-0.3	-0.7
米	0.3	0.6		0.5	0.7
独	-0.3	-0.4	-0.2		0.3
英	-0.8	-0.9	-0.7	0.0	

空欄より右上は女、左下は男

表8 付き合いの%の相関係数

男\女	日	仏	独	英	米
日		0.51	-0.77	0.38	-0.684
仏	0.64		-0.38	0.09	-0.826
米	0.25	0.81		0.25	0.777
独	-0.45	0.09	-0.05		0.059
英	-0.52	-0.94	-0.75	-0.24	

空欄より右上は女、左下は男

項目の順序からみれば日本人にとってはフランス人との関係が深い。日本では会話を始めるのは女のほうに抵抗が少ないが、「なだめる」のは男の方が巧みである。

アメリカではどの場面でも女の方が男より積極的な社交性を示している。逆にフランスで

は男の方が人付き合いがよい。そしてすでに述べたようにイギリス人があらゆる面で積極的に人と接し、ドイツ人は日本人より人付き合いが下手ということになる。

4. 全質問を通しての比較

この調査の質問番号は54番まであるが、サブ・クエスチョンがあったり、多項選択の質問があるので、全体ではかなりのたくさんのことが調べられている。それをいちいち見ていくわけにはいかない。ここでは事実関係、例えば年齢、職業、学歴などは除き、意見や態度などの質問だけをとりあげる。そうして原則として、賛否を問う質問の場合は、賛成か反対かの一方の答えだけに注目し、多項選択(いくつでも選べ)の質問ですべての選択肢(無回答、その他などは除く)を1項目として取り上げることにした。そうすると123項目について比較することができる。

この123項目一括の比較もするが、それではいかにも大味すぎるので、質問の内容により、表9のように「自分のこと(例えば性格)」「家庭内のこと」「自分と社会との関係」「社会問題に対する意見」「学校・教育問題」に分類した比較もする。

1) まず若い女と男の意見の違いを検討する

ために、123項目のすべてについて、女の%と男の%の差（絶対値）を計算してみた。それを国別に示したのが表9である。最も下の全項目の差の平均を見ると、イギリスの女と男の差が5.2%で、これに次いで日本の4.7%が大きく、一番女と男の意見の差が小さいのはアメリカ人3.6%である。しかしこの程度ではどの国でも、女と男の意見に大きな違いがあるとは言えない。

表9 国別の女と男の差の平均（%）

		日	仏	独	英	米	計
自分のこと 21項目	平均	5.5	5.2	8.5	6.6	6.5	
	大差	5	2	6	4	3	20
家庭内のこと 31項目	平均	4.9	3.3	4.5	3.7	3.1	
	大差	5	3	2	1	0	11
自分と社会 16項目	平均	5.7	4.3	5.0	4.4	3.8	
	大差	1	0	0	0	5	6
社会問題 43項目	平均	4.1	3.2	5.0	4.4	3.2	
	大差	6	1	7	5	2	21
学校・教育 12項目	平均	3.2	2.3	2.3	3.8	1.8	
	大差	0	0	1	0	2	3
全項目 123項目	平均	4.7	3.6	5.2	4.5	3.7	
	大差	17	6	16	10	12	61
	最大	21.2	26.9	31.4	28.7	14.8	

大差は10%以上の差の項目数

5分類にすると、学校・教育問題についての女と男の意見の差はどの国でも小さい。つぎに社会問題に対する意見も余り大きな差はない。これらは第3者としての意見を尋ねている質問が多いからかもしれない。それ以外の項目については、国によってまちまちである。

個別の項目で女と男で最も大きな差があったのは、スポーツ・体力などについてである。自分の国については男が関心が強く、母や家族との関係は女の方が密接である。しかし10%以上の差を「大差」と呼ぶことにして、表9のように、どの国でも大差のある項目は少ない。30%以上の差はイギリスで2項目、20%の差はフランス、アメリカ、

日本、イギリスの1項目ずつにすぎない。しかも最後の2つが家庭、社会問題である以外は、いずれも体力やスポーツについてである。

したがって先進5カ国で国内での女と男の意見の差は、一般論としてはほとんどないといつていいだろう。

2) この123項目の各國の若者の答え（%）相互の相関係数を計算すると、表10のようになった。すなわち日本の若者と他の4カ国の若者とを比較すると、女も男もドイツ、フランスとは0.7を越え、イギリス人、アメリカ人とは0.6台である。日本を除く欧米4カ国相互では0.8前後であった。

表10 全項目の%の相関係数

男＼女	日	独	仏	英	米
日	0.74	0.73	0.65	0.61	
独	0.77	0.82	0.80	0.76	
仏	0.75	0.83	0.79	0.79	
英	0.67	0.79	0.82	0.86	
米	0.61	0.76	0.81	0.86	

空欄より右上は女、左下は男

つぎに123項目のそれぞれについて、日本人と他の4カ国との%の差（絶対値）を調べ、その平均値を表11に示した。まず最下行に全項目の差の平均があるが、5カ国に差の平均は図にも描いた。日本との差の平均はドイツ、フランスとは、女も男も15%未満であるが、イギリス、アメリカとは20%近い開きがある。

しかもドイツの女とアメリカの女の差は平均して14.2%だが、ドイツ人と日本人の差は12.6%であるから、ドイツ人の答えはアメリカ人より日本人に近いことになる。男の方も同様である。

3) 質問の内容による5分類ごとの比較もしてみたが、表11のようにどの分野でも、日本

人とドイツ人、フランス人の答えが似ていって、アメリカ人、イギリスとの差は大きいことが分かる。

表 11 日本人と外国人の差の平均(%)

女	独	仏	英	米	日本以外 の最大
自分のこと	14.6	13.4	17.5	23.6	米独 15.2
家庭内のこと	9.0	15.1	18.7	16.9	英独 13.1
自分と社会	13.9	11.4	23.2	22.8	英独 27.2
社会問題	12.8	15.3	16.8	17.6	米仏 14.6
学校・教育	16.1	13.4	18.2	18.0	英仏 18.0
全項目	12.6	14.2	18.3	19.1	米独 14.2
男	独	仏	英	米	日本以外 の最大
自分のこと	11.0	12.2	19.3	25.7	米独 16.6
家庭内のこと	11.0	16.8	19.1	18.2	米独 11.8
自分と社会	12.2	12.6	25.6	20.6	英独 28.8
社会問題	11.7	13.1	15.2	16.2	米仏 12.5
学校・教育	13.8	13.0	21.4	16.3	英仏 17.9
全項目	11.6	13.8	18.8	18.9	米独 13.9

5. 他の国際比較

以上、第6回の調査による国際比較をしてきたが、相関係数にしても、%の差にしても、余り大きな違いではない。いろんな非現実的な統計学的仮定の下で、統計的検定をすれば、有為差があるとは言えないものが多いだろう。しかしこの検定なるものは、サンプルのデータから得られた結論が、母集団（全員）を調査したときでも成立するかどうかだけのことである。この123項目で調査されたことは日常生活で若者達が喜び、悲しみ、怒りなどの関心を持っている事柄のランダム・サンプルではない。したがって、以上の結果から日本人とアメリカ人との意見の違いが大きいと言うことには、気が引ける。

しかし表12や13からも見られるように、い

図 全項目の差（絶対値）の平均

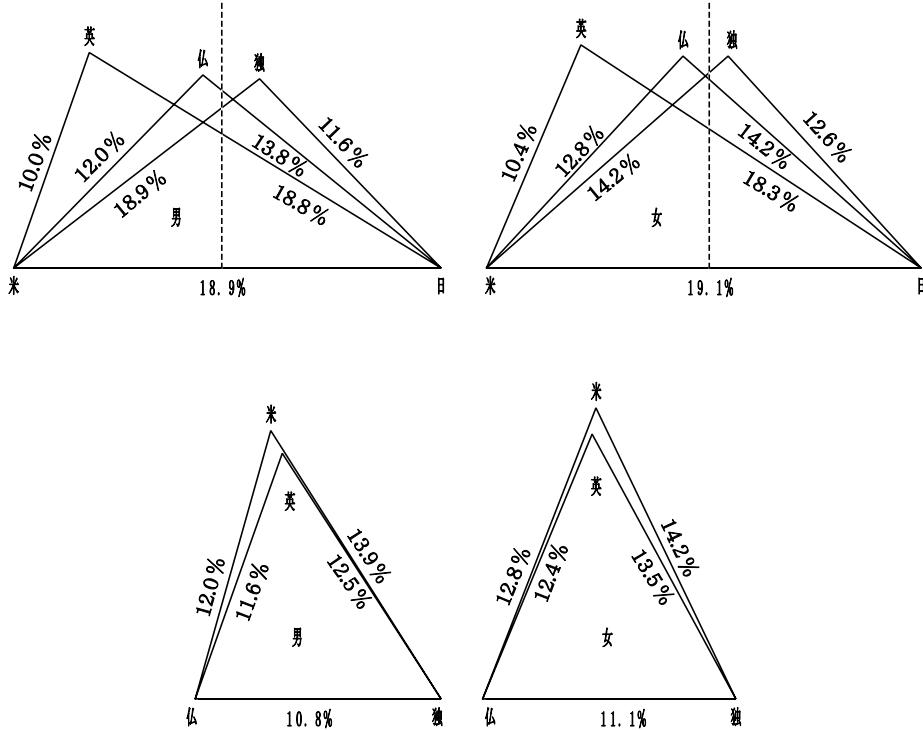


表12 日本との差の平均

調査	年	独	仏	英	米
青年	1998	11.8	13.8	18.5	18.9
青年	1993	11.6	11.7	13.6	15.1
青年	1988	13.5	12.3	14.2	17.9
青年	1983	12.7	11.8	15.3	18.1
青年	1978	12.6	10.8	14.6	17.8
欧州	1981	9.6	10.7	11.8	14.4
欧州	1990	8.9	10.4	11.8	13.2

欧州：欧州価値観調査、成人（18歳以上）

表13 日本との相関係数（%）

調査	年	独	仏	英	米
青年	1998	0.76	0.74	0.66	0.61
青年	1993	0.75	0.76	0.71	0.66
青年	1988	0.75	0.80	0.87	0.59
欧州	1981	0.78	0.70	0.70	0.61
欧州	1990	0.80	0.71	0.68	0.61

欧州：欧州価値観調査、成人（18歳以上）

つの青年の調査でも、日本人とドイツ人やフランス人の調査結果はアメリカ人やイギリス人の結果より似ているのである。それだけではなく、全く違った内容の、欧州価値観調査のデータでも同じことが言えるのである。

その他の調査についても同様の結論に達している（文献参照。しかしすでに一昔前のデータになってしまった。その後の多角的分析をお願いしたい）。とにかく日本はアメリカと政治経済上で密接な関係があるが、日本人とアメリカ人の意見の距離はかなり大きく、日本人はドイツ人やフランス人と近い考え方をしている。それを十分承知の上でつきあうことが、世論調査の効用であろう。

データは総務庁青少年対策本部、『第6回世界青年意識調査細分析報告書』、1999年を利用したが、下記の形で市販されている。

1998年 総務庁青少年対策本部、『世界の青年との比較からみた日本の青年－第6回世界青年意識調査－』、大蔵省印刷局

西平の既発表文献：

1995 社会的価値観は変わるか、『統計数理』43巻1号。

1987『世論調査による同時代史』ブレーン出版

1991 Nishihira, S. et Condominas, C., L'opinion des Japonais - Comparaison internationale - Paris, SudEstasie.